

# デジタルトピック (Vol.11)

このコーナーでは、地域のデジタルに関する取り組みを紹介합니다。 ■問/デジタル推進課 ☎572-3943

## 思いがけない効果も！

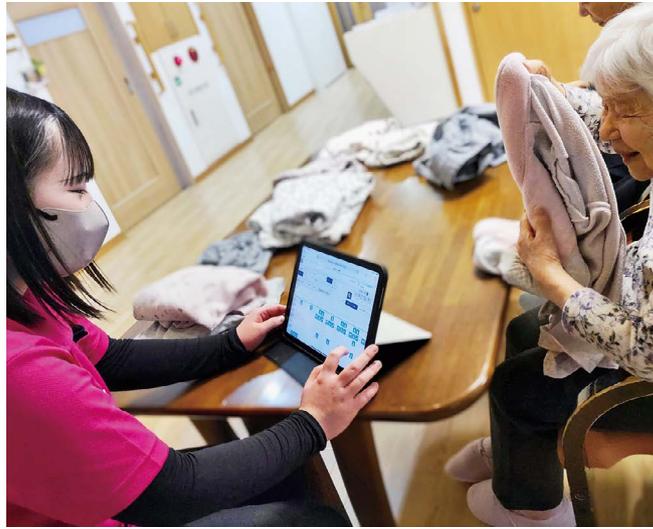
システム導入をきっかけに、職員間で意見交換をする機会が増えたことで、年齢や性別の壁を越えて、よりフラットで風通しの良い関係性を築き上げることができました。

さらに、職員相互で隠れていた能力や長所を発見することも。

職員間の連携で、利用者への充実したケアにつなげていきます！



▲会議では気兼ねなく意見を出し合います



▲介護記録システムを入力する職員

## ICTを活用して利用者も施設職員も笑顔に！ リブレ松川高齢者複合施設

松川地区で地域包括ケアを提供するリブレ松川高齢者複合施設は、「職員がやりがいを持てる職場にしたい」との思いから、福島県のICT導入モデル施設発信事業を活用し業務改善に挑戦しました。

職員間で問題点や課題を出し合う中で、効率的な記録と的確で円滑な申し送りをするために、「介護記録システム」の導入を決定。これまでに複数の書類に重複していた食事や服薬などの記録をシステムで二元管理し、記録時間の削減と円滑な申し送りを実現しました。

こうした業務改善の結果、「利用者へ直接サポートする時間を多くする」という、介護サービスの本来あるべき姿に注力できるようになりました。

これからも職員一丸となり、利用者に信頼されるパートナーとして、安心して暮らせる施設づくりを目指しながら、心のこもったサービスを提供していきます。

We Love♥  
ふくしま！

## 第78回 「市民センターに寄せる思い」

3月1日、市民の多用途活動拠点市民センターがオープンします。真新しい建物に、多様な交流機能と最新の防災・環境機能。障がい者団体が営むカフェにユニバーサルデザイン、そして齋正機さんのほんわかとした絵が来場者をあたたかく迎えます。既に多くの予約で埋まり、ここで市民が生き生きと活動されることを想像すると感無量です。

振り返ると、耐震性が不足し老朽化していた公共施設の戦略的再編整備の検討に着手したのが、市長就任後半年の平成30年5月。7カ月後には、中心市街地の将来ビジョンと合わせて、風格ある県都のまちづくり構想を策定。中央学習センターや市民会館等の身近な機能は、新しい西棟として統合・複合化し、公会堂機能と市民会館の他の機能は、東口再開発の中で交流集客施設を整備することにしました。

新しい西棟は市民センターに衣替えし、令和4年10月に着工しましたが、工事費高騰の折り1回は入札が流れ、事業者の努力で2回目にも落札されました。大幅な計画変更を余儀なくされた東口再開発と異なり、物価スライドによる契約変更を行いつつも、ほぼ当初計画通り完成にまで滑り込みました。超特急で進めても、検討開始から完成

まで約7年。やはり月日を要するものです。

この間、福島県沖地震があり、修復困難な損傷を受けた市民会館のさんどパークは、道の駅ふくしまののももRooキッズパークに生まれ変わりました。私は、耐震性が不足する施設が不安でなりませんでしたが、無事、市民センターに引き継ぐことができて安堵しています。市民センターは、免震構造で、自家発電設備や耐震性貯水槽も配備。日常利用はもちろん、災害時の避難にも安心してお使いいただけます。

従来の西棟構想からは、市議会が自発的に3階分から2階分に減らし、その分、市民利用専用を2階分を増やしました。市役所の1階分も、事務機能を東棟に移し会議室を市民センターに集約するという創意工夫で、夜間・休日には市民利用を可能としました。

齋正機さんには、市のシンボル施設にふさわしい絵を！という願いを受けて、「福島」への郷愁が湧き出てくるような絵を描いていただきました。この絵に見守られて、市民主役の多様な活動が活発に展開され、「福島」への愛着を高めながら、市民と地域が元気になっていくことを願っています。

福島市長 木幡 浩

